

街の灯りが、きらきらと輝いて

いる。道を行く人々は、みな忙しい。

そうだ。遠くから、汽車の音が聞

こえる。その響きは、心の奥にま

でしみこんでくる。

佐藤春夫「都会の憂鬱」より